



校報

水糸者

No. 1231

元年度・第90号

パート2

「種小わかる授業モデル」とは、 「得意な子が満足し、苦手な子がわかる授業」

本校の『重点研究教科・領域』は、今年も特別活動と国語科で、研究主題も昨年度と同じ『種小っ子の輝く笑顔の追求 ～国語科と特別活動の「関わり」を大切に～』です。その実現に向かい日々本校では教育実践に励んでいます。今日は『種小っ子の輝く笑顔の追求』のための、27日に2年岩脇学級で行った国語科の授業研究会について紹介します。

「種小わかる授業」とは…

「種小わかる授業＝得意な子が満足し、苦手な子がわかる授業」となるためには、授業の中に『動く楽しさ』と『伸びる楽しさ』、『集う楽しさ』、『わかる楽しさ』がなければいけません。そのために、本校では45分の学習の中に、①授業のゴールを示す ②共通の土台に乗せる ③活動する時間の保証 ④自分の考えを広げる場の保証 ⑤意欲やめあてのふりかえり場の保証の、5つを設け授業を進めています。

また、45分の授業を子どもがどのように評価したかを、絶えず振り返る必要があります。本校では、授業後に子ども達に7項目のアンケートを行い、その時間の子どもの反応も授業評価に生かしながら、より良い授業を目指しています。



【活動する時間が保証され、子ども達がじっくり考えている場面】

・45分間、意欲や思考が継続されるための「共通の土台」に全員をしっかりと乗せられるかどうか、本校の授業の命綱ともなります。

【自分の考えを広げている場面】

・わかったことをノートに書くことや友達に教えることなどの、発信（アウトプット）によって「わかった」がより一層深く広がっていきます。



【友と関わり合っているいる場面】

・友と関わり合いながら、理解を広め、深めています。良好な友達関係も本校の授業の命綱ともなります。

〔研究授業後の研究会の様子〕



助言者の県北教育事務所・
普代村教育委員会派遣の
工藤咲香指導主事からは、
研究を進めていく視点や
意欲的な2年生の姿、教職
員の姿など、たくさんほめ
ていただきました。



今回の2の2の授業について、より良い指導法につい
て、真剣に議論を交わし合っている本校教職員の姿

今回の研究授業では、子ども達の「関わり合い」を一層工夫して
いく事が今後の研究課題として浮かび上がってきました。

今回の研究授業後に子ども達に実施した「関り」に関する質問項目
「友達に教えてあげたか」に対する肯定的回答率は70.1%でした。

この数値も決して低い数値ではありませんが、研究授業明けの30日
の授業では、同じ項目の肯定的回答率は88.9%にまで高まっていました！

この事からは、授業研究で学んだことをすぐに次の授業に生かす、担任の素直で前向きな
教師としてのすばらしい姿が伝わって来て、とてもうれしく誇らしく感じています。

本校が目指している授業は、一部の教員しかできない『特別な授業』、多くの参観者がい
る時だけの『よそ行きの、着飾った授業』ではなく、『子どもの笑顔を求めて』毎日試行
錯誤しながら実践を重ねている、いつの時代でも、どこの学校でも、何年生にでも通用する、
いわば『不易』の授業を追究しているものです。

その授業の原点は、昭和42年度の本校の教育実践集『もぐりの町で』に記してあった
「わからん時は教えっこ、うれしい時ははしゃぎっこ、困ったときは助けっこ」にあり、その
理念を授業の中で具体化した「種小わかる授業モデル～得意な子が満足し、苦手な子がわか
る授業～」を提示したものです。

今回の研究授業からは、種小っ子の確実な育ちと私たちが目指す授業像の正しさが実感で
き、これからも「わかるまで、できるまでしっかりと学ぶ種小っ子」を育てるために、授業
研修を深め「わかるまで、できるまでしっかりと教える種小の先生」で
あり続ける決意を強くした時間となりました。

友との良好な関りは、良い学力と輝く笑顔につながる事が再確認
された、良い研究授業となりました。



午前授業の日は、『家庭学習の日』です



4日は「中野小学校学校公開研究会」のために午前授業となります。
今回のような、午前授業の日は『家庭学習の日』となり

普段より、多めの宿題や一人勉強を行う日となります。



担任から出された宿題を、家庭や学童でしっかりと頑張りましょう。

体調不良を訴える子が急増してます。この週末もいつも通りの「早寝・早起き・朝ごはん」に代表される、『規則正しい生活』を送りましょう。マラソン大会で、しっかりと頑張れるためにも、規則正しい良い週末をお過ごしください。